



治療へのアプローチ

呉 澤森

弁証

弁証結果

弁証：痰湿内盛・兼有瘀血

治法：化湿祛痰・活血行血

選穴：脾俞・胃俞・三焦俞・気海俞・中脘・水分・陰陵泉・豊隆・膈俞・血海・肩井・合谷・太衝・外関

手技：脾俞・胃俞・三焦俞は切皮後，椎体に向け斜刺 0.5 寸，平補平瀉法。気海俞・膈俞は切皮後，椎体に向け斜刺 0.5 寸，導氣法。中脘・陰陵泉・豊隆・外関・水分・合谷・太衝・血海は切皮後，直刺 0.3～0.8 寸，導氣法。肩井は切皮後，沿皮刺 0.3 寸，刮法。

解説

脾俞・胃俞・三焦俞・気海俞・中脘・水分・陰陵泉・豊隆——理気・化湿・祛痰
膈俞・血海・肩井・合谷・太衝・外関——活血・行血・通絡

症例分析

高脂血症は代謝疾患の一つである。本疾患には、それだけでは自覚症状を起こさないという特徴があり、健康診断の血液検査により発見されることが多い。本症例も同様の経過を辿っている。では、中医学的には、高脂血症をどのように弁証論治すればよいだろうか。次のように分析する。

まず、中医学には高脂血症の定義はない。しかし、高脂血症に罹っている患者の臨床所見からみると、その多くは「痰濁」「血瘀」「湿邪」「食滯」などの病因が関与していると考えられることができる。

正常な場合には、津液の生成・輸送・排泄は、五臓の肺・脾・腎と密接な関係をもっている。なかでも脾の働きの強弱は重要である。脾は水穀と水液の運化を主っている。本症例の場合には、特に水液の運化に着目する必要がある。患者は以前から間食が多く、甘いものをよく食べていた。そして、脾胃の受納・運化作用が追いつかなくなった結果、脾胃は傷付き、発症の基礎が作られたのである。脾胃が傷付いて水液を運化する機能が失調すると、水湿が体内に停滞し痰湿が形成される。その痰湿が長期間取